

一般社団法人移行のお知らせ

平成29年4月1日

平成29年2月22日の臨時総会にて可決されました、「一般社団法人中部地質調査業協会設立に関する件」に基づき、一般社団法人への移行手続きを進めてまいりましたが、この度、内閣総理大臣の認可を得て、平成29年3月1日をもって一般社団法人に移行し、平成29年度より一般社団法人としての事業活動を開始いたしました。

当協会は昭和36年3月に設立以来、中部地区における地質調査業の健全なる進歩発展を目指して、地質調査技術の改善と研鑽に努め、その経済及び社会資本の整備充実を向上させることにより、公共の福祉に寄与、貢献すると共に、会員の社会的地位の向上を図ることを目的に活動を行って参りましたが、今後も設立の理念を大切に、今まで以上に精励いたしてまいり所存でございますので、引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 中部地質調査業協会

3月からの一般社団法人化決定

中部地質調査業協会が臨時総会

中部地質調査業協会(小)



川博之理事長は22日、名古屋市内で臨時総会を開いた。議案は一般社団法人中部地質調査業協会設立に関する件とその役員に関する件。満場一致で3月1日から一般社団法人化が決定し、これまでの任意団体の理事会役員を一般社団法人の理事会役員として引き継ぐこととなった。

冒頭、小川理事長は「一般社団法人の取得によって、これまで以上の社会的信用の確保、認知度の向上を目指す。正会員や賛助会員のメリットも大きい」と話した。写真。

一般社団法人の設立日は3月1日、任意団体の解散日は3月31日、一般社団法人としての事業活動開始は4月1日を予定しており、併存期間を1カ月設ける。

引き続き理事長には小川博之氏、副理事長には西川一弥氏、伊藤重和氏が就任することが決定した。

(建通新聞 平成29年2月24日)

履歴事項全部証明書

名古屋市東区葵三丁目25番20号ニューコーポ千種橋403
一般社団法人中部地質調査業協会

会社法人等番号	1800-05-017177
名称	一般社団法人中部地質調査業協会
主たる事務所	名古屋市東区葵三丁目25番20号ニューコーポ千種橋403
法人の公告方法	官報に掲載してする。
法人成立の年月日	平成29年3月1日
理事会設置法人に関する事項	理事会設置法人
監事設置法人に関する事項	監事設置法人
登記記録に関する事項	設立 平成29年 3月 1日登記

これは登記簿に記載されている閉鎖されていない事項の全部であることを証明した書面である。

平成29年 3月 3日
名古屋法務局
登記官 大場 錦 司

整理番号 ア894597 * 下線のあるものは抹消事項であることを示す。 2/2



編集後記

熊本地震の揺れで地層が水平に移動したこと(ノンテクトニック断層)で生じた亀裂(九州大 辻准教授提供)

2016年度を振り返ると、様々な出来事がありました。5月の伊勢志摩サミットとそれに引き続くオバマ大統領の広島訪問、12月の安部首相の真珠湾訪問、また国連PKO活動への貢献等、我が国では積極的平和外交が展開される一方、世界では北朝鮮のミサイル発射や核実験、南・東シナ海での中国の海洋進出、横行する国際テロ等、平和にどっぷり浸かった我々をあざ笑うかのようなきな臭い問題が次々と起きました。

明るい話題としては、リオオリンピックでの日本選手団。メダル獲得数が過去最高のロンドン大会を上回る41個という大活躍でした。閉会式では安部マリオが日本のアニメ文化を世界に広める一幕もありました。10月には大隅良典博士が岡崎の基礎生物学研究所での研究成果によりノーベル生理学・医学賞を受賞されるという嬉しいニュースも届きました。

そして4月の熊本地震。2016年度の社会資本整備、維持管理の分野は、この地震から始まったといっても過言ではないほどの衝撃でした。小川理事長の巻頭言にもあるように、甚大な被害が発生しました。特に地質・地盤に関わる者にとって関心が高かったのは阿蘇大橋背面の斜面崩壊ではなかったかと思われま

す。11月の博多駅前での大陥没事故。これも我々に大きな衝撃を与えました。ただ、幸いにも人身事故とならなかったこともあり、発生から暫くの間はその復旧の迅速さ、段取りの良さばかりが報道、絶賛され、地質リスクを顕在化させてしまった原因などにはほとんど言及されなかったことに若干の違和感を覚えました。時間とともに原因が明らかにされ、今後その地質リスクの低減に向けた方策が図られるものと思われま

すが、その中で地質調査や地質技術者のプロジェクトへの関与等の重要性が世間に広く認知されればと思います。

また豊洲市場の移転問題は技術的に何が問題なのか

よくわかりませんが、”盛り土”(もりつち)という馴染みのない言葉の登場が記憶に残りました。

ご当地では名古屋駅周辺の高層ビル建設が一段落し、今後はリニア中央新幹線の建設工事が本格化しますが、それに伴う景気の上向きが期待されます。

さて、編集活動に話を戻しますと、前述した熊本地震からまだ日が浅かった平成28年6月、65号の第1回企画編集会議は、集まった編集委員全員の頭の中が熊本地震一色の状態で始まりました。このため、例年、最も頭を悩まし、時には2回、3回と会議を重ねないとまとまらない特集テーマも、熊本地震の原因となった「活断層」に即決されました。

論文テーマのキーワードの抽出から執筆依頼者の絞り込みでも早々と決定し、また益城町の農地に発生した横ズレクラックの映像が頻りに報道されたことから、これを表紙に使えないかという議論まで進みました。

このような第1回の会議で編集の方向性が決まり、その後は執筆者の先生方、および協会各位のご協力もあり、例年になく余裕をもった編集活動で出版に至ることができました。読者の方々には、興味深い内容をお届けできたのではないかと自負しております。

最後になりますが、ご多忙にもかかわらず寄稿いただきました執筆者の皆様、写真をご提供いただきました方々、日頃よりご指導いただいております国土交通省中部地方整備局の皆様、上部団体の全地連の皆様をはじめ、本機関誌発刊にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後も「土と岩」が皆様方から愛読され続けますよう努力してまいりますので、ご指導、ご愛顧をお願い申し上げます。

編集委員会